

# 多様な参加形態の子どもに対応する 森林植物園の特徴をいかした遊びワークショップのあり方

神戸女子大学 家政学部 家政学科 梶木研究室  
西本萌実 毛利光希

## 1. 研究の背景と目的

神戸市立森林植物園は、神戸市北区の六甲山の一角に位置し、1940年に開園された総面積142.6haの大規模有料公園である。森林植物園の北に位置するぼうけんの丘では、2019年6月大型木製複合遊具が撤去された。同年、森林植物園からの依頼により、神戸女子大学梶木研究室では新遊具提案の研究が行われた。2020年には、ぼうけんの丘の特徴をいかしたワークショップ提案の研究が行われた。研究結果より、森林植物園での廃材や木の実を使った自由型遊びワークショップの推進が提案された。

そこで本研究では、過去2年の既往研究による課題を解決し、今後の森林植物園・ぼうけんの丘で開催するより良いワークショップのあり方・運営方法などを実践結果より提案することを目的とする。あわせて、子どもの年齢層と参加形態別の遊びの様子を明らかにし、遊び仲間・遊び集団の大小に依らず、子どもたちが主体的に遊ぶことができるかどうかを検証することを目的とする。

## 2. 研究方法

神戸市立森林植物園・ぼうけんの丘において、計4日間子ども向け遊びワークショップを実施した(表1)。遊び内容は、森林植物園の特徴をいかした4種類の遊びを用意し、第2回と第4回では、クラフト遊びにおいて季節の遊び(ハロウィンコスチューム作り・クリスマスリース作り)を追加した。いずれも、子どもが主体的に遊ぶことのできる自由型遊びに設定した。これらの遊びワークショップは、既往研究から得られた課題と提案をもとに、改善して実践し、学生プレーリーダーによる観察調査により得られた結果から検証する。また、子どもの参加形態別の様子を明らかにするため、子どもの参加形態に応じて背中にカラーテープを貼った(表4)。ワークショップに参加した子どもの保護者と学生スタッフにアンケート調査を実施し、参加者の年齢・形態別にワークショップの評価を明らかにする(表5)。

表1. ワークショップ概要

	第1回	第2回	第3回	第4回
日程	10月17日(日)	10月31日(日)	11月7日(日)	11月21日(日)
開催時間	12:30~15:00			
遊び タイトル	①いろいろな形のシャボン玉をつくろう ③ドキドキストラックアウト		②自然いっぱいクラフト遊び ④わくわくボール転がし	
遊び 内容	① 紙のないうちわやプラスチックチェーンなど様々な道具を使い、大きいしゃぼん玉やたくさん小さいしゃぼん玉を作った。 ② 森林植物園に提供してもらった松ぼっくりや木の板など豊富な素材を提供し、好きなものを作った。 第2回では同コーナーにオレンジ・紫・黒の3色のカラーポリ袋を用意し、手作りコスチュームを作成した。 第4回では、毛糸を用意し、インディアンコースターなどのクリスマスの飾りを作成した。 ③ 学生が事前にダンボールで作成したストラックアウトやボール入れを用意した。また、お手玉や皿回しなどの昔遊びなどの遊びを置いた。 ④ 学生が事前で作ったボール転がしのコースでボールや園で拾ったどんぐりなどを転がして遊んだ。 牛乳パックやトイレットペーパーの芯など素材を提供し好きなコースを作って遊んだ。			
天気	雨のち晴れ	雨のち晴れ	晴れのち曇り	晴れ
参加親子(組)	10	30	80	120
参加学生(人)	12	9	13	13

## プレイワゴンによる課題解決型子どもの遊びワークショップのあり方

### 3. 観察調査の結果と考察

既往研究における遊びワークショップの課題と提案を改善し、2021年度版の遊びワークショップを実践した。その様子を学生プレーリーダーが観察調査した。その結果、親子の様子や各遊び場及びワークショップ全体に対する課題と要望が明らかになった(表2)。

表2. 既往研究の課題・提案を改善した本研究での取り組みと結果

【遊び形態】 自由型遊び	【遊び形態】 自由型遊び
<b>【シャボン玉遊び】</b> ①液を設置する高さが低かったことで芝生の草が混入しやすく、時間の経過とともに、しゃぼん玉が作りづらくなった ②液で手がべたべたになった	<b>【シャボン玉遊び】</b> ①液を置く台を用意し、液を設置する高さから離して置いた →地面からの高さが出たことで芝生の草の混入が少なくなったため、最後までシャボン玉を作ることができた。 ②ビニール手袋をSとMの大きさを2種類用意した →ビニール手袋はSサイズでも子どもの手には大きく遊び辛そうだった。そのためもう一段階小さいものを用意するか、多少大きいくてもフィットしやすいゴム手袋を用意する必要がある。 ・持ち運びのしやすさを優先し、液の水を現地で足した →シャボン玉液が馴染みにくく粘度が高かったためシャボン玉を作りづらかった。また、現地で水を足し忘れた日があり、シャボン玉がうまく作れなかった。 ・手洗い用のウォータータンクが空になったとき、手の空いた参加者のお父さんが積極的に水汲みを手伝ってくれた。 →ワークショップに対して、保護者の積極的な参加が期待できた。
<b>【ストラックアウト】</b> ①ダンボール自体の強度が低く、風が吹いたときに倒れることがあった ②的の中に入ったボールが中に溜まり、取り出しにくく、遊び自体の回転率が悪かった	<b>【ストラックアウト】</b> ①ダンボールの強度を高め、風対策としてベグで固定した →風に飛ばることがなく、安定した遊具であった。また多少の雨や強風、子どもが力強く投げたボールにもびくともしずとても頑丈だった。 ② 的の裏側に開閉できる扉を取り付け、小さな子どもでもボールを簡単に取り出せるようにした →遊びの回転率が上がり運営しやすくなった。また、中に溜まったボールを集めることに夢になる子がいた。 ・用意していたボールの数が少なかつたため運営が大変な時があった →参加者の数を見込み、ボールの数を増やすべきであった。
<b>【日程・時間】</b> 土曜日よりも日曜日、午前より午後のほうが参加者が多かった 一毎月の第1・第3日曜日 13:00~15:00	<b>【日程・時間】</b> 日曜日 12:30~15:00 →日曜日の開催は参加者も多く妥当であった ・スタッフの集合は10時過ぎとし、準備時間と昼食時間をしっかりと確保できたため開始時刻も妥当であった →現地においてスタッフ全員でランチタイムの時間を過ごすことでスタッフ間のコミュニケーションがとりやすくなった。 ・開始時刻前に人が集まりはじめ、開始時刻になったとたん行列ができてしまった →参加者の見込みが多い日は順次始めるべきであった。
<b>【環境整備(道具)】</b> ①倉庫が遠く、重いイスや机を運ぶのに国内のトラック・植物園のスタッフの手助けが必要であった →イスや機の軽量化・倉庫の設置 ②テントが複雑で学生だけで設置するのが困難だった →テントの簡略化	<b>【環境整備(道具)】</b> ①イスや机を軽く、持ち運びしやすいものを用意した → 国内スタッフの力を借りることなく準備ができた。 持ち運びしやすく物が一度にたくさん運ぶことのできるワゴン2台を用意した → ワゴンで運ぶことで運びやすく倉庫が遠くても困らなかった。 ②テントも簡単に設置できるものを用意したため、学生たちだけで設置できた → 学生たちだけでテントを設置できた
<b>【環境整備(設備)】</b> トイレ・水道設備が少なく、遠い	<b>【環境整備(設備)】</b> ・遊び場の近くに簡易的なウォータータンクを設置し、軽く手を洗うことができるようにした →わざわざ遠い手洗い場まで行かずに済む参加者が多くいたため遊びに集中できた。 ・タンクの下が水浸しになった →靴がどろどろになってしまう子がいた
<b>【交通費】</b> 1回あたり1人5000円の支給	<b>【交通費】</b> 山陽須磨駅を起点とし、北鈴蘭台駅までの往復1480円×参加回数を1人あたりに支給(神戸市緑化協会助成金より) →森林植物園は須磨の学校に通っている学生には少し遠く交通費がかさむため、支給は必要である。しかし、助成金ではスタッフ全員の交通費を賄うことはできなかった。



写真1. シャボン玉

写真2. クラフト遊び

写真3. ボール投げ

写真4. ボール転がし

【シャボン玉遊び】 シャボン玉遊びでの課題は、参加人数が見込めず用意していた道具やシャボン玉液、ビニール手袋が足りなかったこと、現地でのシャボン玉液への水の追加忘れにより、うまく遊べなかったことが挙げられた。

【クラフト遊び】 子どもよりも保護者が真剣に作業に取り組むケースが多く、保護者の介入が最も多かった。子どもの服の汚れを気にする保護者が多いことから、イベント告知の際に服装の注意連絡が必要であることがわかった。また、保護者の介入が多いため遊びスペースをより広く確保しておく必要性もわかった。

【ボール投げ】保護者の介入が最も少なかったため、学生スタッフの対応が遊びにとって特に重要な役割であり、スタッフの配置に配慮が必要であることがわかった。また保護者は子どもよりも夢中になって昔遊びを楽しんでいた。保護者が遊べるコーナーがあることは、子どもの遊びへの介入を制限するためにも必要であることがわかった。

【ボール転がし】遊び場での子どもの滞在時間が最も長い遊び場であった。遊びがシンプルであるからこそ集中しやすいことがわかった。少し離れて見守る保護者も多かったが、子どもと一緒に新しいコース作りに夢中になる保護者もいた。

これらの結果より、保護者は遊び場により子どもとのかかわり方を変え、介入の度合いも違うことがわかった。

### 子どもの年齢層と参加形態別からみた遊びワークショップの効果

#### 4. 子どもの年齢層と参加形態別アンケート調査の結果と考察

アンケート回答者は、計4日間のワークショップを通して、保護者168名、学生スタッフ36名であった(表3)。ワークショップに参加した子どもの年齢層は「0歳～4歳」が最も多かった。子どもの参加形態は「緑色：子ども2人以上(兄弟姉妹で参加)」が最も多く、次いで「赤色：子ども1人(1人っ子)」が多かった。

表3. 子どもの年齢層と参加形態別アンケート調査概要

調査対象	ワークショップ参加者	
	保護者	学生スタッフ
調査場所	神戸市立森林植物園 ぼうけんの丘	
調査日 (回答者数)	2021/10/17 (10人) 2021/10/31 (24人) 2021/11/7 (64人) 2021/11/21 (69人)	2021/10/17-10/18 (8人) 2021/10/31-11/1 (6人) 2021/11/7-11/8 (11人) 2021/11/21-11/22 (11人)
調査時間	12:30～15:00	ワークショップ終了後～翌日
調査方法	受付時にアンケート用紙を配布し、その場で記入してもらう。	ワークショップ終了後、Webアンケートを配信。

表4. 参加形態における配色

子どもの参加形態	子ども1人(1人っ子)	子ども1人(1人で参加)	子ども2人以上(兄弟姉妹で参加)	子ども2人以上(友達と参加)
カラーテープの色	赤色	青色	緑色	黄色

表5. 子どもの年齢層と参加形態

	0歳～4歳	5歳～6歳	7歳以上	赤色(1人っ子)	青色(1人で参加)	緑色(兄弟姉妹で参加)	黄色(友達と参加)
2021/10/17	7	6	5	2	0	8	0
2021/10/31	17	13	7	8	5	12	0
2021/11/7	42	35	17	25	6	30	3
2021/11/21	43	34	34	20	7	34	8
合計	109	88	63	55	18	84	11

#### 4-1. 保護者対象アンケート調査の結果

【遊び相手】第2回以降は「子ども同士で遊ぶ」との回答が得られた（図1）。これらは、ワークショップにおいて見知らぬ子ども同士の遊びの展開がみられたといえる。

【楽しかった遊び】子ども1人で参加した子・子ども2人以上で参加した子、共に「シャボン玉」が最も人気であった（図2）。「その他」では、研究室より持参した皿回しやけん玉などの昔遊びが挙げられた。

【評価できる点】「遊ぶ素材が豊富」「遊び方が自由」「安心な場所」「空間が広い」「遊び相手（大学生）がいる」の項目が高い割合であった（図3）。これらは、遊び内容・遊び空間を重視しているといえる。

#### 4-2. 学生スタッフ対象アンケート調査の結果

【各遊びでの子どもの年齢層】ボール転がしでは「0歳～4歳」の参加者が他の遊びに比べて多かった（図4）。ボール転がしは、単純で簡単な遊びであったためこのような結果に繋がったといえる。

【遊び相手】大人も一緒になって参加できるクラフト遊びにおいて「親と遊ぶ」との回答が多く得られた（図5）。一方、ボール転がしは、子どもだけで参加しやすい遊びであったため「1人で遊ぶ」が多かった。

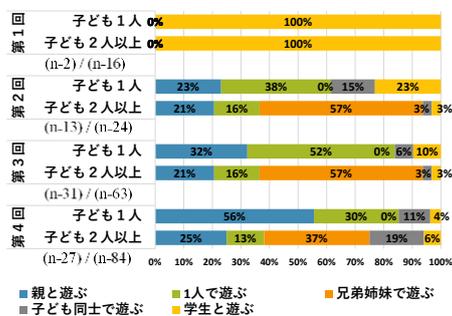


図1. 遊び相手

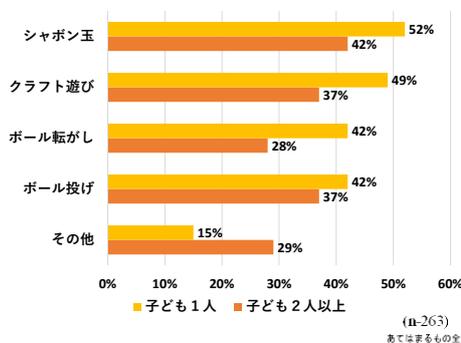


図2. 楽しかった遊び

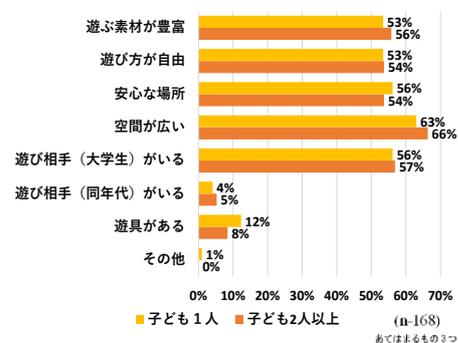


図3. 評価できる点

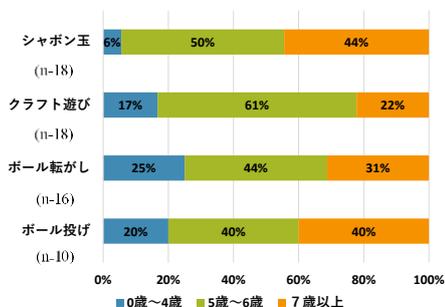


図4. 各遊びでの子どもの年齢層

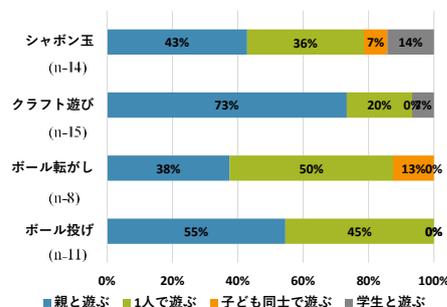


図5. 各遊びでの遊び相手

## 5. 今後の提案

本研究の結果より、森林植物園のぼうけんの丘において今後取り入れるワークショップについて、学生プレーリーダーによる観察調査と保護者・学生アンケート調査の結果から分けて、提案を行う。

### プレイワゴンによる課題解決型子どもの遊びワークショップのあり方

#### 5-1. ワークショップ提案（観察調査）

【運営】開催時期は春(4月～5月)と秋(10月～11月)とし、いずれも日曜日に実施する。開催時間は本研究での取り組みと同じ12:30～15:00とするが、参加者が多いと見込まれる日は随時始める。運営方法は、プレイワゴンによる運搬でポップアップ式のワークショップとする。遊び道具は頑丈で軽く持ち運びしやすいダンボールで作ったものや昔遊びなどの手軽に遊べるものとし、イベントに必要な机・イス・テントは運搬しやすいように簡易的で軽く、組み立てが容易なものとする。

【遊び内容】遊び型式は自由型遊びとし、同じ季節のワークショップは全日程同じ内容とする。ポップアップ式のワークショップは事前準備に手間がかかるため一定の期間は同じ遊び内容とし、そうすることでリピーターの子どもの数も増えると考えられる。遊び内容の詳細は季節によって変更するが、基本的にクラフト遊びと運動遊びの両方を取り入れることとする。これはアンケート結果(図2)にもとづき、森林植物園の特徴をいかした遊びを展開するためである。

【参加スタッフ】プレーリーダーは学生を中心とした若い世代で運営する。これは、普段子どもたちが学生くらいの若い世代と交流する機会が少なく非日常的な体験をするためである。また、遊びの幅を広げるために、高齢者スタッフの参加を呼び掛け、スタッフの層を厚くする。

### 子どもの年齢層と参加形態別からみた遊びワークショップの効果

#### 5-2. ワークショップ提案（アンケート調査）

今後の遊びワークショップでは、さまざまな遊びブースを用意することを提案する。遊びブースでの内容は、0歳～4歳の子どもには、ボールを使った遊びや砂遊びを提案する。これらは、それぞれの子どもの合った遊び方で自由に遊ぶことができる。また、作ったり壊したりすることのできる単純で簡単な遊びこそ子どもたちを惹きつけることができる。5歳以上の子どもには、体を使う遊びや縄遊び・クラフト遊びを提案する。可変性のある遊び素材を用意することによって、子どもの創意工夫を得ることができる。加えて、季節によって遊び内容を変えることで、1年を通して楽しむことができる。遊び型式は、自由型遊びを提案する。自由型遊びは、遊びの目的を決めていないため、ワークショップに参加している子どもに合わせて遊びを発展・変化させることができる。よって、遊び仲間・遊び集団の大小に依らず、子どもが主体的に遊ぶことができる。

## 6. まとめ

本研究は、2019年度、2020年度に神戸市立森林植物園で実施した研究成果を基に、ぼうけんの丘において子ども向け遊びワークショップを実施した。既往研究から得られた課題と提案をもとに改善し学生プレーリーダーによる観察調査と、子どもの年齢層と参加形態別の遊びの様子を明らかにするためにアンケート調査を行った。

観察調査では、神戸市立森林植物園・ぼうけんの丘においてのワークショップで、既往研究の課題と提案を実践し、それによる取り組みと結果・新たな課題を得ることができた。今後のワークショップに向けての新たな課題は、トイレ・水設備の設置と保護者用ベンチの設置(レジャーシート持参の呼びかけ)、親子遊び場の設置と保護者用遊び場の設置、ワークショップ参加者人数の把握の5点が考えられる。

アンケート調査より、4種類の遊びを用意することで、参加者は年齢に適した遊びに参加することがわかった。また、保護者が介入しやすい遊びや子ども同士で遊ぶことができる遊びがあったため、多様な参加形態に対応することができた。加えて、自由型遊びにすることで、参加する子どもの年齢や参加形態が違って、それぞれに合った遊び方で自由に遊ぶことができることが明らかとなった。子どもは、遊ぶ素材・道具、遊ぶ場所が備わることで、次々と遊びを考え発展させる想像力・創造力が豊富であることがわかった。子どもの遊びの中で、遊びの見本となったり補助をしたりする大人の存在は必要不可欠であり、各々の子ども観や遊び観を共有することで、子どもの想像力・創造力をより豊かにできるといえる。

## 7. 謝辞

本研究は、多くの方のご協力により無事に終えることができました。研究にご協力いただいた神戸市立森林植物園金森園長、本位田副園長、小林様をはじめ、職員の方々、ワークショップにご協力いただいた梶木ゼミの学生、ワークショップに参加して下さった方々、本当にありがとうございました。また、ご多忙にも関わらずワークショップの準備や論文作成にあたって、多くの指導をくださった梶木典子先生、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

神戸市公園緑化協会様より、本研究を援助していただけたおかげで円滑に準備を進めることができました。また、計画通りにワークショップを実施することができました。心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症により大変な状況の中での調査となりましたが、子どもたちの元気いっぱい遊ぶ姿に、多くの刺激とパワーをいただくことができました。本研究にあたって、大変貴重な経験をすることができ、皆様にご協力いただけたこと深く感謝いたします。